



Vamos juntos



No.3

文責 小坂佑騎

アリアンサは行事がいっぱい！！

9月7日（土）に盆踊りがありました。ブラジルの盆踊りは、日本のお盆の時期ではなく、8月末ごろから日系コミュニティが残る地域で開催されているようです。ここ第一アリアンサでは、入植祭も兼ねて盆踊りが開催され、村内だけでなく近隣の地域からも大勢いらっしゃいました。ブラジルの盆踊りでは、パステルやシュラスコといったブラジルの食べ物の他に、うどんや巻きずし、おまんじゅうなど日本の食べ物も販売されます。さらに第一アリアンサの盆踊りでは、弓場農場が焼きそばやたこ焼き、かき氷、味噌、茶碗などの焼き物も販売するため、近隣の地域ではとても有名なのだそうです。うどんは出汁や麺もすべて手作り。特に、うどんは材料の小麦粉だけで110キロも使いました。この準備は、文化体育協会、婦人会、青年会、日本語学校と、それぞれの人が協力し合って、一つの行事を運営しており、コミュニティの結束力を感じました。ちなみに日本語学校では、盆踊りの運営に関わる会議のときに、ごみの分別に課題があると伺ったので、授業でごみ箱をつくりました。そのかいもあって、当日は来場者の方もごみの分別に協力してくださいました。



ごみ箱づくり



婦人会の皆さんを中心に まんじゅうづくりと、うどんづくり



盆踊りの様子



村の有志の方による、盆踊りの曲の生コーラス&生演奏



9月15日（日）には運動会がありました。運動会はブラジル、日本両国旗掲揚・国歌斉唱から始まり、ラジオ体操、玉入れ、借り物競争、1000メートル走、魚釣り競争など、小さい子どもたちからお年寄りまでそれぞれが楽しめる種目がたくさんあり、また各種目で入賞者には商品もあり、大いに盛り上がっていました。最近の日本では町や村ごとでの行事がだんだんと減ってきていますが、ここアリアンサでは今でもこういった行事を大切に、準備運営や行事への参加をする中で互いに交流し、村の人同士の繋がりを深めているように感じました。

両国旗掲揚・国歌斉唱



チーム対抗ゲートボール



入賞者には、砂糖や醤油、油、お菓子などの賞品、また、競技参加者には参加賞もありました。

10月12日（土）には「うどん会」という会がありました。うどん会とは、うどんを作って販売し、年間予算を確保するための行事だそうです。1年を通して、婦人会、日本語学校、青年会の3回あるそうで、今回は青年会のうどん会でした。盆踊りと同じく、麺も出汁も一から作るのですが、今回は鶏を絞めるところから始まり、私も鶏を下ろすことに挑戦しました。こういった体験は日本ではなかなかできないことですが、生きている鶏を自分の手で肉にすることで、命をいただくことの尊さを感じることができました。うどん会には、近隣の村や町からもお客さんがいらっしや、親戚の方や昔なじみの方が集まり、うどんを食べながら語っていました。今の日本では、こういった行事はほとんど残っていないのではないのでしょうか。こういう機会に親戚の人や古い友人と語らうというのは、いいなと感じました。

一方でアリアンサでも日本と同じく少子高齢化が進み、行事の運営が難しくなりつつあるのも事実です。しかし、みんなで協力して行事を続けたいという村の人々の願いもあります。ここアリアンサでも日本と同じような課題に直面しており、こういった行事の準備や運営を通じた大切な人と人とのつながりをいかに残していくかを考えていく必要があります。



うどん作りの様子

近隣の村や町から多くのお客さんがいらっしやいました

